

交流人口増加で 新たなステージへ

東日本大震災から14年が経過します。震災の記憶や教訓の伝承活動が根付いてきていることを心強く感じる一方で、県内の人口は沿岸市町をはじめ減少傾向が鮮明になっており、地域活力の維持には交流人口の増加が重要と考えています。今、全国では、円安の影響もあって海外からの旅行者が急増しています。宮城県においても徐々に外国人旅行者が増えているという実感をお持ちの方もおられるでしょう。しかし、統計調査によると宮城県に宿泊する外国人旅行者は、日本全体の約0.5%にとどまっています。また東北全体で見ても1.5%程度で、他のエリアに比べると残念ながら東北は一人負け状態になっているのです。今までは宮城県の財政状況を考えると観光施策に充てる予算には限りがあり、思うような施策ができませんでした。そこで、観光に特化した財源を確保するため、昨年の9月議会に宿泊税条例を提案し可決されましたので、早速今までできなかったヨー

ロッパからの誘客強化に手を打つことにしました。ヨーロッパからの観光客は数週間日本に滞在することが多く、一つの県だけでなく広いエリアを周遊されます。まずは、県庁内にヨーロッパからの誘客強化のための新組織を作り、東北6県と新潟県および仙台市が共同で資金を出し合ってヨーロッパの観光事業者の招請事業を一緒に行いたいと考えています。新しい取り組みですので、成果が出るまでに少なくとも5年はかかると思います。当面の目標は、外国人宿泊客全体の約1割を占めている九州に追いつくことです。東北一丸となって全力を尽くします。ご期待ください！

宮城県知事 村井 嘉浩

【写真の説明】**1** 岩沼復興アグリツーリズムで震災の語り部を行う谷地沼代表理事 限定カレーランチを楽しむツアー参加者 **2** 岩沼市で生産された復興米「ひとめぼれ」を使用したお酒や煎餅 **4** 「岩沼みんなの家」でおいしい料理を提供する地元の皆さん **5** 地元の食材を使ったジェラート



― 地域との交流は？ ―
「岩沼みんなの家」の建設当初は、地域とのつながりがなく、地元の方にすぐに受け入れられたわけではありませんでした。しかし、竣工した年の10月にハロウィンイベントを企画したところ、仮装した子どもたちが大勢集まってくれまし

た。その光景を見て、地元の方々に少しずつ受け入れられていると実感し、とても感動しました。その後は、クリスマスイベントや祭りなどを次々に開催。祭りの規模は年々拡大し、今では敷地内いっぱいに屋台が並び、500人ほどが訪れる一大イベントになっています。

― 今後の展望は？ ―

「岩沼みんなの家」を建てて終わりではなく、活動を継続し、社会貢献していくことが一番大切だと思っています。さらに、震災伝承は後継者を育て、次の世代につないでいくことが重要です。私自身は、県の震災伝承コンソーシアムの連携部会長を務めており、イン



インフォコム株式会社みんなの家推進チーム兼一般社団法人岩沼みんなのアグリツーリズム&イノベーション 堀 拳駄さん

市と包括連携協定を結びました。今後も、少しずつ活動を広げ、岩沼のみならず県南地域での防災ツアーなどを展開していきたいです。そして、いずれば岩沼で育った子どもたちが成長したときに、次の社会的課題を一緒に解決するような取り組みができれば、それが何よりうれしいですね。



本シリーズでは、県政運営の基本指針「新・宮城の将来ビジョン」において重要な視点として位置付けている「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、各分野で魅力ある活動に取り組む県内の企業・団体などを紹介しています。



次世代へつなぐ 震災伝承と農業の力

一般社団法人岩沼みんなのアグリツーリズム
&イノベーション(岩沼市)

地域の人たちが集まる「岩沼みんなの家」。そこを拠点に復興支援活動や農業の6次産業化などに取り組む、一般社団法人岩沼みんなのアグリツーリズム&イノベーションの堀拳駄さんにお話を伺いました。

― 「岩沼みんなの家」ができた経緯は？ ―

私は、以前から社会的課題を解決する仕事がしたいと考えていました。縁があってインフォコム株式会社へ入社し、環境省のモデル事業や千葉県の房総里山再生プロジェクトなどに3年ほど携わりました。そんな中、東日本大震災が発生。被災地での炊き出しをきうかけに、会社の社会貢献活動

(CSR)として被災地支援を始めることになりました。その頃、岩沼市再生のアイデアを求めて、房総里山再生プロジェクトに連絡をくれたのが、後に「岩沼みんなの家」で共に活動をする谷地沼代表理事ら岩沼の方々でした。話し合いを進める中で、建築家の伊東豊雄氏らが提唱する「みんなの家」を知り、「これだ！」と確信。そして2013年、「岩沼みんなの家」が完成しました。

― どんな活動をしているの？ ―

「岩沼みんなの家」を拠点に、さまざまな復興支援活動に取り組んでいます。その一つが、震災伝承・防災学習と農業体験を組み合わせた「岩

沼復興アグリツーリズム」です。このツアーでは、谷地沼代表理事による震災の語り部や「千年希望の丘」でのフィールドワーク、岩沼市職員による震災講話と避難所体験に加え、イモ掘りや農作物の定植・収穫といった農業体験などを通じて、震災当時の状況や岩沼の魅力伝えていきます。震災伝承の取り組みとして、県の補助事業にも採択されました。ツアー参加者の中には、自身の防災意識を見直すために定期的に参加する方もいます。一人でも意識が変わることで、この活動の意義を感じています。

岩沼農業6次産業化

津波で流された農産物の直売所の復活を皮切りに、地元

ページ	新・宮城の将来ビジョンシリーズ
2	PROGRESS ～ともに創ろう、躍進する宮城の未来～ 一般社団法人岩沼みんなのアグリツーリズム &イノベーション(岩沼市)
4	特集 みやぎの観光戦略
6	県政ニュース みやぎ2025 第48回全国育樹祭
8	県政ニュース 3.11を忘れない
9	県政ニュース 5月23日から 盛り土などには許可が必要です
10	7つの地域から虹メール
12	お出かけガイド
14	おいしいものがたくさん! まんぷくみやぎ
15	みやぎのふるさと通信(大河原町)
16	県立施設インフォメーション
17	県からのお知らせ

みやぎの人口(令和6年12月末現在)

住民基本台帳人口／2,224,983人(前年同月比-17,411人)		
男／1,084,682人	女／1,140,301人	
世帯数／1,052,123世帯(前年同月比+7,482世帯)		

宮城県は、令和6年能登
半島地震の被災地の復
旧・復興を応援します。



今号の表紙 震災伝承と農業の力を未来へつなぐ 「岩沼みんなの家」

(一社) 岩沼みんなのアグリツーリズム&イノベーションが主催する「岩沼復興アグリツーリズム」に同行した際の1枚です。谷地沼代表理事の「岩沼みんなの～!」の掛け声に続き、ツアー参加者全員で「いえーい!」と声を合わせて撮影しました。和やかな雰囲気の中、参加者の緊張もほぐれ、ツアーは大成功に終わりました。